

## 2018胆振東部震災

# 子どもの心のケア報告

発達支援センター長 さいの ひとし  
小児精神科 才野 均

9月6日午前3時8分、北海道は、胆振東部を震源とする最大震度7の未曾有の大地震に襲われました。震源近くの厚真町、安平町、むかわ町の3町では、40人を超える死者、多くの家屋の倒壊などの大きな被害となり、「恐怖で眠れない」、「(地震を体験した)自宅に帰りたがらない」、「これまで一人でできていたことができなくなった」などの、子どもたちの心の不調も多く生じています。

当センターの小児精神科では、道の要請をうけ、札幌の児童精神科医が中心となって結成した「北海道子どもの心のケアチーム」の一員として、9月15日に3町の子どもの精神症状についての視察を行い、その後週2回ペースで開始さ

れた子どもの心のケア活動に合計5回参加してきました。

活動では、3町の保育園、子育て支援センター、発達支援センターなどを訪問し、震災の後、不安・恐怖が強くなったり、落ち着きがなくなったりしている子どもの診察と、遊びやカウンセリングによる治療を行うとともに、不調になった子どもを支える家族や保育士などの地域スタッフへの、学習会やケースカンファレンスなどの支援を行いました。

被災地の復興は簡単に進むわけではなく、過去の大震災後の教訓としては、子どもの心のケアは年単位で必要と言われています。小児精神科では、地域支援の一環として、今度も被災地の子どもたち



が健やかに発達していけるよう、地域スタッフと連携して支援を継続していこうと思っています。

## リハビリテーション整形外科が

# 最優秀ポスター賞を受賞

リハビリテーション ふうさかわ ひろより  
整形外科 房川 祐頼

第29回日本小児整形外科学会学術集会にて、「3次元歩行解析に基づくGait Profile Scoreを用いた二分脊椎患児の歩容評価」の研究で最優秀ポスター賞を受賞し、来年度の台湾小児整形外科学会のtraveling fellowに決定いたしました。歩行を点数化するGait Profile Scoreを応用することで、二分脊椎の歩容を障害レベル別に数値化し、係留症候群の早期発見や術前後の新たな評価ツールとしての有効性を報告しました。



房川祐頼

藤田裕樹

# 運動発達のために必要な経験とは？

リハビリテーション課 きむら まさたけ  
理学療法士 木村 正剛

「筋緊張が高く体が動きにくい」 脳性麻痺など、脳の発達に何らかの問題がある場合に見られる症状の一つです。これは筋肉や関節に直接的な原因があるのではなく、脳からの指令が誤っているために起きています。脳が正しい指令を出すためには、体のどの部分がどの位動いているのかを知る必要があります。

踵を浮かせて歩く尖足歩行はふくらはぎの筋緊張が高いのですが、多くの場合つま先を持ち上げる運動に難しさがあります。この時に必要な経験は、足首がどの方向に動いているのか、どのくらい動いたのかを分析し、知ることです。自分の身体を理解するという経験は脳が出す運動指令の基礎になるため、結果として運動しやすさを学習することが出来ます。

自分の身体を理解するという経験は、運動のぎこちなさや不器用さの改善にも有効です。ジェスチャーやポーズのまねは、相手に注目し、体の複数の場所に注意を向けて記憶し、自分の身体で再現す



るという脳での情報処理が必要です。運動が苦手な場合、まねの再現度が低く、体の一部分しか出来ていなかったり、左右を間違えたりします。この時に必要な経験は、相手をしっかり注目する注意の使い方や学習です。お手本になる相手の動きをきちんと分析する経験を通じて、自分がどの様に動いたらよいかのイメージが作られ、滑らかな動きを習得することが出来ます。

運動発達のために必要な経験。それは脳が正しい指令を出せるように自分の身体を知り、お手本となる動きを知ることです。

リハビリテーションを見学される際には是非このような点に注目してみてください。

## クリスマス会

Merry Christmas!



サンタさんとONちゃんがやってきました！

12月20日（木）、札幌手稲養護学校の体育館でクリスマス会が開催されました。

クリスマス会を盛り上げる余興は、中学生の子ども達による楽器演奏から始まり、続いて地域連携課・看護部・企画総務課職員によるトーンチャイム演奏の音色が体育館に響き渡ったところで…、ロックバンド！？が登場！！アンコールもあり、大いに盛り上がりました。

最後は待ちにまったサンタクロースが登場！全員にプレゼントと配り終わると、来年も来てくれることを約束し、サンタの国に帰って行きました。

